



14th February

クラフト工房 LaMano
東京都町田市の福祉作業所。緑に囲まれた環境で、天然素材を使った染め・手織りとアート活動など、生きがいをもち、社会参加することを目指して様々な活動を行っています。

EVENT.01 Colorful Fes
（ららぽーと柏の葉）
多様性とSDGsがテーマの『カラフルフェス』に、「わたす日本橋」もブースを出店。クラフト工房 LaManoさんとコラボレーションした「ゆかいな動物で缶バッジづくり」のワークショップは、開始と同時にたくさん親子連れが集まりました。LaManoさん所属のアーティストさんの下書きに思い思いの色を塗り、プレス機を使ったオリジナル缶バッジにワクワク。手作りを通して多様な社会を考えるきっかけになればと思います。

新わたす新聞

Vol.11

2026年4月15日発行第11号 発行元:わたす日本橋

「遊びや体験を通じて、今を知り、未来を想う。」
「わたす」の心を伝えたい。

被災地への応援をはじめ、防災意識向上、子どもたちの未来への目線、地域文化の継承など、多彩なイベントや講演会、ワークショップなどを随時開催。ららぽーとで実施した「Colorful Fes」と「&EARTH災害に負けない知識を学ぼう！」のレポートです。



1st March

オンライン防災
防災の敷居を低くし、いのちを守るためにできることを、学びながら伝えていく活動を行っている団体。オンラインを活用したイベントのほか、ワークショップも開催。呼びかけに応じた人々がNURIE大使となり、活動を盛り上げています。

EVENT.02 &EARTH
（ららぽーと新三郷）
「オンライン防災」さんが開発した「ぼうさいNURIE」。東日本大震災の教訓を織り込んで、「地震が来たらどうするか」「何を自分の防災リュックにいれるのか」を考えながら、ぬりえを通して「いのちを守る」ことを学べるプログラムです。お子さんたちは迷うことなく防災グッズを選び、色塗り。普段からのご家庭や学校などでの防災意識の高さが垣間見えるようでした。

大崎市 ひまわりの丘
6haの丘に42万本が咲く様は圧巻

宮城県 春景色
南三陸町 田東山のつつじ
満開の頃、山は見事な朱に染まります

春から夏へ、宮城の豊かな自然がまさに花開く季節。5月、三陸町の「田東山（たがねさん）」では満開のつつじが山肌を朱く染め、まさに絶景。7月から8月にかけては大崎市の「ひまわりの丘」に42万本のひまわりが咲き乱れ、光り輝く夏を謳歌しているかのよう美しいです。

キッチンから watasu

日本には豊かな四季があり、海と山に囲まれた変化に富む地形が広がっています。この南北に長い列島では、地域ごとに多様な文化や風習が育まれてきました。

「わたす日本橋」では、こうした季節の節目を彩る伝統や、各地の文化を「食」を通じて皆様にお伝えしたいと考えております。

日常のビジネスランチの一皿にも、復興を信じて東北の土地で育てられた生産者の想いや、その時期ならではの旬の力が息づいています。単なる食事の提供に留まらず、料理を通じて日本の折々の行事や、その背景にある物語を感じていただける場所でありたい。11年目の今、改めてその決意を胸に、皆様の心に届く「故郷の味」を真心込めてお届けします。

料理を通じて、日本の文化やその背景のストーリーを伝える場所でありたい。

Watasu RECIPE
「わたす日本橋」シェフ直伝

山形だし

東北彩り恵みコースの「山形だしのふわふわ卵かけご飯」に乗っている「山形だし」のレシピ

①オクラは茹でて冷やし、水気を切り5mm幅に刻みます。

②きゅうりとなすは5mm角に切り、強めの塩で30分置いたあと、両手でしっかり水気を絞ります。

③みょうがも同様に5mm角に刻みます。

④全ての野菜をボウルに入れ、調味料と合わせて味を調えれば完成です。

シャキシャキとした食感が、温かい白いご飯によく合います。

材料 (3名分約 200g)

- ・みょうが 1個 20g
- ・オクラ 2本 20g
- ・きゅうり 1本 80g
- ・なす 1本 80g
- ・大葉 2枚 2g
- ・薄口醤油 5cc
- ・いりごま(白) 8g
- ・ほんだし 2g
- ・塩昆布 4g

vol.9 わたすスタッフコラム

帰り際の一言が
「わたす日本橋」畑中 満

「故郷の味、久しぶりに味わえました」
1人でランチに来店された紳士の言葉に、私は「はっ」としました。

日本橋のビジネス街にある「わたす日本橋」には、日々多くのお客様が訪れます。ビジネスパーソンの皆様にとっては、あくまで「いつものランチ」。私自身も、スピードと質を追求するサービスの責任者として、それが当たり前の日常だと思っていました。

けれど、メニューの主役は東北の食材であり、それらを育てた生産者の想いです。紳士のあの一言で気づかされました。私たちが忙しく提供していたのは単なる食事ではなく、復興を信じて耕された土地から届いた、かけがえない「大事なモノ」でした。

日常の中に、誰かの故郷が溶け込んでいて。サービスマンとして少しだけ誇らしく感じ、私は次のゲストを最高の笑顔で迎えるようと思いました。

TOPICS
日本橋 だより
Watasu nihonbashi

いろいろなイベント開催 & 参加しています。詳しくは @ でどうぞ

4月22日(水)
能登半島支援会×わたす日本橋
2024年元日に発生した能登半島地震。第5回となる「能登半島支援会×わたす日本橋」のイベント開催が決定しましたのでお知らせいたします。スピーカー1名さまに能登の「イマ」をお話いただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

6月3日(水)
5つの味わいで楽しむ宮城の日本酒ペアリング
宮城県産の日本酒を、味(酸味、うま味、甘み)のバランスと香りを頼りに5種類のタイプに分類。各タイプから厳選した日本酒と相性の良いおつまみとのペアリングをお楽しみいただけます。講師には宮城県産業総合センター 上席主任研究員 橋本建哉先生にお越しいただき、橋本先生の解説を聞きながら日本酒とおつまみを楽しんでいただきます。

編集後記
今も毎月洲州市へ支援活動に。まだまだ復興への道のりは長いですが、行く度に地域で立ち上がる皆さんに元気をもらっています。(ねぎ) 〇この原稿を書いている今日は3月11日。あの日から15年がたちました。南海トラフ地震や首都直下地震など大規模災害のリスクが高まる中、あたためて防災・減災の重要性を認識し、わたすとして情報を発信していきたいです。(副編集長Y) 〇被災地への想い、多様性への視点、日常での防災。「わたす日本橋」のポータル活動が様々な気づきへと繋がります。(D) 〇防災や人とのつながりの大切さを改めて感じています。これからも活動の様子をお伝えしていけたらと思います。(そーた)

わたす nihonbashi
公式HP
https://www.watasu.net
TEL. 03-3510-3185

Instagram

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022938

復興へ歩み続ける 奥能登



2024年の能登半島地震で大きな被害を受けた珠洲市、輪島市、能登町。いま奥能登では復旧の槌音が各地で響いている。珠洲市では被災家屋の解体が進み、港では漁船が再び海へ出る姿も見られるようになった。輪島市でも焼失した朝市周辺の将来像について議論が続く、地域の新しい形を模索する動きが広がっている。被災地では住民や行政、支援団体が協力しながら復旧と再生に向けた取り組みが続いている。少しづつではあるが、日常の風景



も戻り始めている。人々の暮らしも一歩ずつ動き出している。復旧の途で中だった奥能登は、2024年秋の能登半島豪雨にも見舞われた。それでも地域の人々は歩みを止めない。輪島では出張朝市が各地で開かれ、珠洲では仮設店舗で営業を再開する店も増えている。祭りの灯りも再び町に戻り始めた。地域の交流やにぎわいを取り戻そうとする動きも少しずつ広がっている。奥能登はいまも前へ進んでいる。人と人のつながりを力に、地域の未来を築こうとする挑戦が続いている。その確かな歩みを、ぜひ現地で感じてほしい。

能登の今

能登半島地震からまる2年が経ち、能登半島豪雨からもうすぐ1年半。復旧・復興に向かう奥能登の歩みと挑戦をご紹介します。
(文/④村上泰史・⑤大場黎亜)

小さな繋がり続く スーパーでまちを元気に



2024年の能登半島地震によって地域にただ一つあったスーパーが倒壊した珠洲市大谷地区で、支援型の商店「みんなのスーパー」がオープンしました。「みんなのSUPER(すばらしい)を集めて、みんなにSUPERを届ける」を合言葉に、スタッフも地域住民で担いながら、商品の販売はもちろんのこと、買い物代行・配達の手配も行っています。代表の頼光和弘さんは「高齢者たちの日常を支え、復旧工事の関係者にも利用してもらい、小さな繋がりを生み続けることで故郷を元気にしたい」と語ります。



さまざまな取り組みが 人の輪をつなげる。



臨時増刊能登リポート号でもご紹介した、輪島市三井町を拠点に活動する「のと復耕ラボ」は、その後も地域支援を続けてきました。そして、未来に向けた取り組みとして、自伐型林業を取り入れた森づくり、森の遊び場づくり、二拠点のためのタイニーハウスづくり、茅葺屋根の保全活動などさまざまなプロジェクトを展開。中でも、被災者に寄り添いながら行った「古材レスキュー」の取り組みは、グッドデザイン賞を受賞。こうした活動から派生して関係人口や移住者が増え、中には地域の空き家を活用したいという動きも生まれています。

南三陸 の1と vol.3

震災から15年、 迎える転換期



大場 黎亜
(南三陸在住)

あの、未曾有の災害となった東日本大震災から15年。南三陸町で暮らしながら、ここ数年は、確実に被災地が転換期を迎えつつあるのを実感します。平成17年度の合併以前、旧志津川町時代から町長を務めてきた佐藤仁氏が、昨年11月の任期満了で勇退されました。復興の歩みを振り返り、涙を流しながら最後のスピーチをされた姿は、全国ニュースに流れました。佐藤氏は「首町としてできる使命は果たした」と第一線を退きつつも「ひとつでも多くの命を守るために伝え続ける役目がある」と、新たに「南三陸311メモリアル」の特別顧問に就任、町は新町長のもと、次のステージへと進んでいきます。

南三陸町が謳う「ひと・森・海のちめぐるまち 南三陸」に欠かせない里山の取り組みに、今後注目です。

南三陸町震災復興祈念公園をフィールドに町民有志でスタートさせた、南三陸高校1年生対象の「防災ワークショップ」も、まる3年を迎えました。3年間の中でも各年で1年生の持つ震災の記憶の濃さに開きがあることを痛感します。それでも、こうした取り組みをきっかけに、高校生たちによる語り部や文化継承の機会が増えるようになっています。この先どんな震災を知らない世代ばかりになっていく中で、私たちも「ひとつでも多くの命を守るために」できることは何なのか、毎月集まりながら日々話し合っています。ま



また、沿岸部の復興の歩みを支えてきた内陸の入谷地区では、嬉しいニュースがありました。令和7年度の農林水産祭における「豊かなむらづくり全国表彰事業」において、復興を支えながらも地域の暮らしや文化を守り、外からの関係人口を増やし、次世代へむらづくりの取り組みが高く評価され、栄えある「天皇杯」を受賞したのです。

その姿が大きく変わりましたが、地域の方々はもちろん、復興支援に携わった人たちも、一人一人がその日のことやその後の歩みを胸に、今を過ごしています。

「わたす日本橋」にて写真コンクール作品展開催中



「わたす日本橋」にて写真コンクール作品展開催中

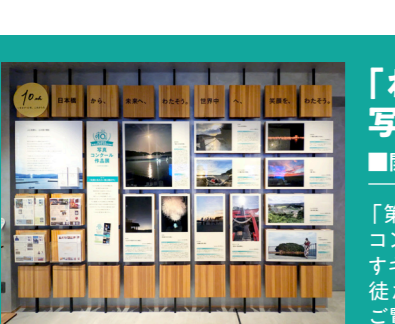
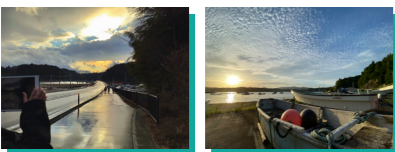


「第10回南三陸町立志津川中学校・歌津中学校写真コンクール」が開催されました。

「わたす日本橋」では2015年の開設以来、宮城県南三陸町立志津川中学校・歌津中学校との交流を継続して行ってきました。その一環で始まった写真コンクールも、今年で第10回という節目を迎えました。2025年12月19日に開催された今回のコンクールでは、生徒たちがそれぞれの視点で撮影した南三陸町の風景や日常のひとコマが数多く応募され、個性豊かな作品がそろいました。

コンクール当日は、志津川中学校と歌津中学校の教室と、現在さまざまな分野で活躍されているゲスト審査員、そして「わたす日本橋」の関係者やウェブでつなぎ、オンライン形式で審査会が行われました。上位10作品の発表に加え、生徒とゲスト審査員との質疑応答の時間も設けられ、作品に込めた思いや撮影時の工夫などが紹介されました。

生徒たちの作品には、友人との何気ない時間や学校生活の一場面、海や山など南三陸町ならではの美しい自然などが写し出されており、日常の中にある魅力を新鮮な視点で捉えたものばかりでした。また、審査員からの質問に対してもしっかりと自分の言葉で答える姿が印象的で、生徒たちの表現力やコミュニケーション力の高さに大きな感銘を受けました。



「わたす日本橋」にて 写真コンクール作品展開催中

開催期間/2026年2月~9月(予定)

「第10回南三陸町立志津川中学校・歌津中学校写真コンクール」の入賞作品は、「わたすギャラリー」にて展示しております(入場無料)。生徒たちが切り取った南三陸町の魅力を、ぜひ会場をご覧ください。

防災用品特集



防災用品でまず重要なのはトイレです。人は1日平均7回トイレを使うため、携帯トイレは家族人数×7回×日数分を備えておきたいものです。次に電気の確保。在宅避難ではポータブル電源と発電機の組み合わせがおすすめです。電子レンジや冷蔵庫が使える2000Wh以上が安心です。大規模災害ではガソリンが手に入りにくくなるため、カ

セットガス式発電機があると役立ちます。水は飲料水に加え、洗浄などに使う生活用水も必要です。食料は防災食だけでなく、普段食べているレトルトや缶詰を回しながら備えるローリングストックが現実的です。照明は懐中電灯やランタンを準備し、ペットボトルのレモンティーに光を当てると柔らかな灯りになります。国は最低3日分の備蓄を呼

びかけていますが、規模によっては5~7日分の備えが安心です。季節に応じた防寒具や暑さ対策も忘れず準備しておきましょう。



手動ラップ式簡易トイレ ラップポンSH-1

奥会津・金山町の山里にある大塩温泉共同浴場。泉質はナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉で、湯上がりは肌がすべすべ。すぐ近くの炭酸水には日本でも珍しい天然の炭酸水が湧いており、その水は「わたす日本橋」でも提供されています。名水と名湯がそろう奥会津の魅力です。

